図 書 館 の 機 械 化

—鳥取大学医学図書館の場合—

宍 道 勉*

は じ め に

このテーマが、「医学図書館」で取りあげられることの狙いは、何であろうかと考える。機械化という言葉は、陳腐すぎて、図書館以外の一般社会なら「何を今さら」と奇異の念をもたれるに違いない。それだけ図書館という機構が古くさい存在であることの証しなのかも知れない。だが、他の機構のように金のかかる機械を急がなくても従来通りの手作業でやっていけるのも図書館にほかならない。

しかし、医学図書館が情報センターとして機能を発揮しようという時代になると、否が応でも、機械化を考えざるを得ない。それもコンピューターが機械化のすべてであることは明らかである。コンピューターが情報検索も含めた図書館サービスを全てやってくれる時代になるまで、ただ待つのではなく、それを前提とした機械化と必構えを持つべきである。

ここでは、その点をふまえて、セレクトターの事例報告をしたい。

カードセレクトター

この機械が、一般企業のみならず、およそ機械化には、縁遠い図書館にまで普及しているのは、「情報検索機」という特性が、コンピューターに及ばないにしても図書館における情報検索に適しているからにほかならない。機械化といえば、直ぐ省力化と方向が決るものであるが、この機械は、結果からみて省力とみえる点もあるが、図書館では初めからそれを主目的とするものではない。機械の導入は、従来の余分の手作業を省くと同時に、それに伴う業務量を増大させることとなった。その

ことは、機械化による矛盾では決してなく、これまでの労力が、新しい業務に振替えられて、図書館サービスがより充実されるとみるべきである。

当館では、現在、カードセレクトター（シャープマルチカードセレクトター-HAC 820）に付属品として序列復元装置をとりつけ、雑誌受入業務、情報検索業務（雑誌特集記事検索・単行本検索）に活用しているので紹介したい。

1. 雑誌受入業務における利用

医学分野では、雑誌が情報源の大半を占める。従って医学図書館の活動は、雑誌の処理業務によって、左右されているといっても過言ではない。日々絶えることのない受入業務の煩雑さは、医学図書館なら、つねに痛感するところである。我々が、カードセレクトターを導入するにあたって、先ず、この雑誌受入業務に応用することを目論んだのも当然のことである。

カードセレクトターは、本来、情報検索を目的として、開発された機械である。しかし雑誌受入業務はむしろ、管理業務であるから、それに活用するためには、カードの設計も困難をきわめた。少なくとも従来の visible の雑誌受入カードに記載していた事項は、当然入力されねばならないし、visible-card では、やり得なかった作業のための入力も考慮しなければならない。これらの点を検討の上、我々は、図1のような「雑誌受入記録カード」を作成した。カードの記入方法は、visible-card の場合と変りはない。ここでは、セレクトターカードに移行したことによる merit を、列記したい。

①誌名検索

通常の受入チェックの際には、機械によるカード検

* Tsutomu SHINJI, 鳥取大学附属図書館医学部分館

雑誌受入記録カード 鳥取大学附属図書館医学部

誌名		所蔵箇所		和洋		種別		発行年月日		納入		金額													
A	Br	E	Na	V	A	J	Ar	A	K	U	0	0	0												
A	Bu	K	Me	S	W	Am	J	S	B	L	V	1	1	1											
A	Q	F	Ka	P	Sa	X	B	K	T	O	M	W	2	2	2										
A	Q	G	Ka	O	Sa	Y	C	L	U	D	N	X	3	3	3										
A	H	P	Sa	Y	Co	D	M	V	E	O	Y	4	4	4											
A	He	Ky	P	To	Z	E	N	W	F	P	Z	5	5	5											
A	Q	I	L	O	Ta	F	O	X	G	Q	無	6	6	6											
B	D	I	M	R	To	G	P	Y	H	R	あ	7	7	7											
Be	E	J	Me	Ra	Tr	H	O	Z	I	S	い	8	8	8											
Di	Eu	J	Ap	N	U	I	R	無	J	T	う	9	9	9											
誌名 (第1音)		第2音		第3音		雑誌番号		国名		発行		納入者		所蔵箇所		巻		製本		LACK		受入		記録	

巻	号	発行年月日	受入年月日	供用年月日	受領印	金	額	巻	号	発行年月日	受入年月日	供用年月日	受領印	金	額
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															

MMML 71965462-B

図 1

索はしない。雑誌受入記録カードは、アルファベット順に vertical にファイルしておき、visible-cardの場合と同様、一誌ごとにカードを manual で検索し、記録する。ところが、カードのこのファイル方法では一覧性がないので、時としてファイルを誤って、カードが不明になるという事故が生ずる。この場合に限って誌名検索つまり、誌名コラムの第一音、第二音、第三音のマークにより該当カードを探し求める。

②納入者別雑誌リスト作成

納入者コラムのマーク検索で、sort したカードにより、各々納入者リストが作成できる。

③所蔵箇所別の雑誌リスト作成

所蔵箇所コラムの検索で、リストが作成できる。部

局からの要求があり、利用が多い。

④未着(納入)雑誌調査(納入者別)

納入者コラムと受入記録コラムの第1ポジションとの検索。sort されたカードのチェックにより、納入者に対し claim ができる。

⑤欠号調査及び欠号雑誌リスト作成(納入者別)

納入者コラムと LACK コラムとの検討。納入者別の欠号状況が判り、随時、claim ができる。LACK が生ずると、LACK コラムにマークされ、補充されると、マークは、パンチして消すことができる。

⑥会計事項の調査(納入者別)

納入者コラムと受入記録コラムの会計事項部分との検索で、支払状況、支払方法等がチェックできる。

⑦統計資料作成

購入、寄贈の別、タイトル数その他の調査

②～⑦のカード検索の場合カードが検索 sort されると、アルファベット順のファイルが、混乱し、調査が終った時には、再び手作業によるファイルが強いられてきた。この作業は時間の浪費ばかりでなく、業務の停滞をもたらしてきた。これを解決する手段として「序列復元装置」という附属品を取付けることとなった。この機械は、その名称が示す通り、sort されたカードを、その順序を乱すことなく、原状にファイルする機械である。これにより、雑誌受入業務における手作業は、受入チェックと会計事項の金額記載だけで済むようになった。

このセクターは、1個(ないし2個)の質問に対して、多数の回答を抽出することには適しているが、多数の問に対して同時に各々1つの回答を sort する能力がない。したがって、雑誌の毎日の受入記録は、唯一手作業に頼らざるを得ない。

2. 情報検索業務における利用

最初に述べたように、カードセクターは、情報検索に利用して初めて、真価を発揮する。

報情検索の方法としては、コンピューターによる IR, SDI があり、一方図書館独自でできる方法として、二次資料を用いる manual の文献検索がある。前者は、MEDLARS や Excerpta Medica に代表されるが、コンピュータの利用を単一図書館で行なうことは、現在のところ不可能であり、それらの情報検索を利用する為には、他に依存せざるを得ない。一方、manual による文献検索は、利用者の図書館に対する信頼度を高める意味

で重要な情報検索業務であるが技術面及び人的理由からも、難点が多い。しかし、我々は、カードセクターを用いてあくまでも図書館の所蔵する情報の検索を行なう。すなわち、我々は、図書館で受入れる。「雑誌の特集記事」「単行本」の情報を蓄積し、情報検索サービスに利用することに主眼を置いている。

2-1 雑誌特集記事

雑誌の特集記事は、トピックとしての要素が多いこと、綜説の多いことを併せて、利用度が高い。当図書館は、週刊の「新着文献情報」に特集記事(今のところ和文雑誌)の書誌事項を掲載しているが、一方で、その内容(主題)をセクターカードに入力している。この蓄積された情報を遡及検索業務の一環として利用している。

2-2 単行本

従来、及び現在でも、当館に限らず、図書館所蔵の単行本の検索は、もっぱら、「カード目録」に頼っているのが、共通の実状であろう。このカード目録作成のために、図書館の労力は、業務の大半をこれに要しているにも拘らず利用者の利用が伴わないから、図書館の自己満足としばしばいわれてきた。カード目録を冊子体目録に移行するなど、様々な改革方法がとられてきてはいるが、しかし排列された目録(カード)は、利用者でなく、相も変わらず図書館員が半ばあきらめをもって利用することに終始している。

我々は、そこで「著者名」「書名」「件名索引」「分類」各目録を、全て廃止して、情報検索カード(図2)に統一することを考えた。最低4枚の目録カードを必要とし

FAMILY NAME		F	C	SUBJECT	
上	上	上	上	上	上
中	中	中	中	中	中
下	下	下	下	下	下
A A C	A A C	A A C	A A C	A A C	A A C
D D F	D D F	D D F	D D F	D D F	D D F
G G H	G G H	G G H	G G H	G G H	G G H
J J K	J J K	J J K	J J K	J J K	J J K
L L M	L L M	L L M	L L M	L L M	L L M
N N O	N N O	N N O	N N O	N N O	N N O
P P Q	P P Q	P P Q	P P Q	P P Q	P P Q
R R S	R R S	R R S	R R S	R R S	R R S
T T U	T T U	T T U	T T U	T T U	T T U
V V W	V V W	V V W	V V W	V V W	V V W
X X Y	X X Y	X X Y	X X Y	X X Y	X X Y
Z Z	Z Z	Z Z	Z Z	Z Z	Z Z
KEY WORD (TITLE)					
AUTHOR		CLASS. NO.		SUB-HEADING	
YEAR		SUB-HEADING		YEAR	

図2 A面

てきたのに対し、セレクトカードでは1枚 (see card を含めても多くて2枚) のカードに集約できる。それはカードの複製、インターファイルの業務を省略する。同時に検索は図書館員が行なうが(従来もそうであったように一度に2つの命令に対し、回答を与えてくれるので、調査も適確、迅速になる。

2-3 「情報検索カード」の解説

① Keyword コラム (図2 A面, ①~⑦)

このコラムが、このカードの maincolumn である。縦の列、上9段の上、中、下と下の2段との組合せによって、一列で、一文字(アルファベット)を表わす。(2孔、1意方式)横が20列あるから、すなわち、このコラムで文字を表わすことができる。外国語は、そのまま表記できるが、日本語については、ローマ字化(ヘボン式)して表記する。マークの組合せの実験の結果、同時に2語(word)を、このコラムに入力してもほとんど混同する危険性がないことが判った。つまり、Keyword を2語まで in-put できるということである。このことは KWIC 方式では大きな意味を持ち、この機械をより有用なものとしている。

利用 a)

「和文雑誌特雑記事」は、その中の keyword を選び(2語まで)ローマ字化し、マーク(in-put)する。又、Keyword を補う意味をもち、よく使用され、しかも主題を表わすのに不可欠な用語は右欄のコラム中にある sub-heading として組み入れてある。従って、記事の検索は、両コラムの併用により、正確な内容が検索可能となる。

例えば、「胃、十二指腸潰瘍の手術適応」というテーマであれば、keyword は「胃潰瘍」「十二指腸潰瘍」「手術適応」の3語である。そこで KEY WORD コラムには、前2者がローマ字化された上、in-put される。「手術適応」は、sub-heading の「手術」にマーク(in-put)されることになる。

利用 b)

「単行本」の検索カードとして利用される場合には、このコラムで「書名」を表わす。更に書名中に keyword があれば、一語だけ書名と並列して in-put する。つまり、このコラムは、従来のカード目録でいえば、書名・件名目録の役割を果たす。

② AUTHOR コラム

マーク(in-put)の方法は、keyword コラムの場合

と同様である。このコラムでは、単行本の著者もしくは、編者を1名だけ表記する。姓(Family Name)は full name で、First Name (F), Christian Name (C) は、それぞれ initial のみ表わす。つまりこのコラムは、「著者名目録」の役目をする。

③ Classification Number

このコラム表記法も、「2孔1意方式」と呼ばれ、縦の排列の数字(もしくはS)を2つ組み合わせることによって、1つの数字を表わす。つまり、0, 1, は各々、0とS, 1とSで、表わされ、3, 5 は、それぞれ1と2, 1と4をマークすることにより、示される。Mは NDC の医学490の49をMに置きかえたものである。「分類目録」の役割を果たす。カード目録の場合にも、分類表により検索することは少なかったもので、セレクトカードにおいても、主題の検索はもっぱら keyword コラムで行ない、分類コラムで検索することは少ない。図書館の統計資料作成にもっぱら利用されるであろう。

④ SUB-HEADING コラム

KEYWORD コラムで述べたように、このコラムは、あくまでも keyword の補助するもので、このコラム単独の検索は、ほとんどない。

⑤ DIV (division) コラム

division すなわち、単行本の形式区分を示す。情報検索としての利用はない。

⑥ YEAR コラム

出版年を、西暦の下二桁で表示する。表記法は class number column と同様である。各種調査、統計、カード区分に利用する。

「分出」とは、そのカードが分出カードであることを示す。すなわち単行本のタイトル中に keyword が多数あって一枚のカードに一度に入力できない場合とか、双書の「内容」を表わす場合に、keyword が3個以上あればカードは2枚以上作成される。主カードには詳しい事項が記載されるが、この「分出」カードは主カードを指示する「see card」として用いられる。「分出」にマークすることにより、蔵書統計の際に、「分出カードを除く」という命令を与えれば、セレクトカードは蔵書冊数を数えてくれる。

⑦ Subject

ここは見出し語を記入する空欄で検索対象とはならない。

書 名			請求記号	記 事		
著者名						
双書名			誌 名			
出版地	出版社	出版年	巻	号	年	
所蔵個所		購入書店	件名 (Key word)			
受入番号		購入価格				
受入年月日		Microfiche Color () Number ()				

図 2 B 面

左辺は、従来の目録カードに記載していた事項を記入する。会計事項もここに記入される。

右辺は、雑誌特集記事の正確な書誌事項を記入する。つまり左辺、右辺とも、表面の入力データにより、検索した事項のより詳しい内容が記入される。

更に、この情報検索カードは、microfiche index として利用する。すなわち、利用度の高い雑誌特集記事中の論文は、記事がカードに入力されると同時に、microfiche camera processor により、microfiche に収められる。この microfiche は、独自の分類が与えられて、ファイルされる。このファイルナンバーはセレクトカードの裏面に記載される。これにより、利用者は、求める主題に関する論文をセレクトで検索し、原論文を必要とする際は、ファイルから、microfiche をとりだし、reader-printer

により、必要となれば、hard copy を求めることができる。

カードを設計し、作成した時点では、機械機能について認識が薄かった。したがって、いざ機械を操作し、実際の検索を行なうにつれて、カードの不備な点が目につくようになった。ことに、「雑誌受入記録カード」は、不要なものを入力対象とし、入力すべき事項を外すなど、完全なものとはいえない。根本的な改正の必要があるが、現在のところでは、修正をして利用している。

このほか、セレクトを多角的に他の業務に利用しようと検討している。既に、この機械を活用しておられる図書館の活動状況を知り、示唆をも受けた。

(昭和 48 年 12 月 5 日受付)

*

*

*